

OR学会会長就任の挨拶

刀根 薫



村井会長の後を継ぐという大任にいささか緊張しています。村井会長は学会のために大きな貢献をなさいました。特に、1994年の福岡でのAPORSの成功は会長のご尽力によるところが大でありました。また、日頃から我々学界側の人間に対してマネジメント側からの適切なお助言とご指導を賜りました。このことは、会長の経営者としての長い経緯から得られた知見によって可能となったものであり、我々学会員はいわば無料でそのご指導を受ける幸運に恵まれたともいえます。本当にありがとうございます。今後とも、ご健康に留意されて、大所高所から学会にご助言をいただけるようお願いいたします次第です。

さて、私は日本OR学会は2つの方向もしくは使命をもっているとかねてから思っています。一つはアカデミックスとしての内容の充実であり、もう一つはORの実施の拡充であります。40年に及ぶ学会活動と優秀な人材の参加によって前者の目標は着々と達成されつつあります。今日、日本のORは国の枠を越えて国際的な活動期を迎えています。それだけに、創造性と競争的な環境に耐え抜いていく逞しさが益々要求されます。また、我々は有能な後継者すなわち学生会員をこの分野に参入させるための努力と指導を怠ってはなりません。

もう一つの方向、ORの現場への拡充という面では如何でしょうか。企業に在籍されている会員のご努力によって多くの有益な応用がなされていることは確かであります。しかしながらORの存在を知らずにORを必要としている現場は数知れ

ずあることも事実であります。例えば、広い意味でのロジスティクスの問題を取り上げてもらうと、この分野は、ORを使えば一層のコスト削減または時間の短縮ができる可能性があることは確かです。しかし、その現場にいる多くの人達はどうか取り組んでいけばよいかを知りません。WindowsやExcelの使い方は知っていても線形計画法(LP)は知らないというのが多数です。このような人達にどのように接近してゆかが学会のこれからの課題ではないでしょうか。彼らにLPの初歩から理解させることはあまり有効な手段ではありません。多くの人は途中で投げ出すでしょう。むしろ、Windows上のソフトとして提供しその使い方を教えるほうがより効果的です。我々の学会にはそのような努力またはサービス精神が少し足りないのではないのでしょうか。品質管理のサークル活動のように、現場のOR活動にもう一工夫あってもよいと思います。これはほんの一例に過ぎません。そのような活動への要望はデリバティブ取引に代表される金融業や、電子情報の集積であるスーパーマーケット等の小売業をはじめいたる所にあります。現下の経営環境はORにとって順風ではありますが、我々はそれを十分に利用しているとは言えません。

これからの学会の努力目標としてこのような方面の充実を願っている次第です。また、春秋の研究大会において、もっと多くの人々が日頃の成果や抱えている問題点を発表し、活発な議論ができるようになることを期待しています。これをもちまして私の就任の挨拶とさせていただきます。